

原発事故の被害

平成31年(ラ)第48号

2019(令和元)年9月11日審尋期日

抗告人ら代理人 大河陽子

1

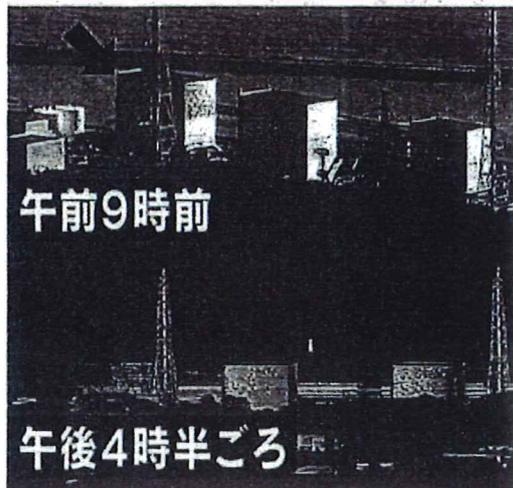
福島第一原発事故

2011年3月11日

(甲253 映画「日本と原発 4年後」 3分00秒～3分32秒) 2

水素充満 爆発

2011年3月13日読売新聞



午前9時前

午後4時半ごろ

福島原発 建屋内の酸素と接触



の炉心溶融のしくみ
 炉心
 燃料
 圧力抑制プール
 正常な水位では燃料が水につかっているが
 水位が下がると燃料が露出し、空だき状態となり炉心の温度が上昇
 蒸気圧が上がり、炉心の温度が上昇し、セシウムなどが放出。炉心がさらに過熱し、原子炉圧力が急激に上昇すると爆発の危険性も

福島原発の建屋は、原子炉の冷却水を貯えるためのプールがあり、このプールが空になると、原子炉の燃料が露出し、空だき状態となり、炉心の温度が上昇し、セシウムなどが放出。炉心がさらに過熱し、原子炉圧力が急激に上昇すると爆発の危険性も

福島第一原発の建屋に、原子炉の冷却水を貯えるためのプールがあり、このプールが空になると、原子炉の燃料が露出し、空だき状態となり、炉心の温度が上昇し、セシウムなどが放出。炉心がさらに過熱し、原子炉圧力が急激に上昇すると爆発の危険性も

(甲1045)

3

THE YOMIURI SHIMBUN
 読売新聞
 2011年3月15日
 3.15火

東日本巨大地震 特別紙面
 死者 2475人
 行方不明 3811人
 負傷 1893人
 建物 67545戸
 (15日午後1時現在)

超高濃度放射能が拡散

福島第一 4号機

1号機 2号機 3号機 4号機

2号機も大量漏出か

避難範囲拡大の必要も

30キロ屋内退避

身体に影響の数値
 長官 年間限度の400倍

米軍が酒

2011年3月15日
 読売新聞

(甲1047)

4

原子炉 冷却進まず



3月16日午前、福島第一原子力発電所。3月16日午前、福島第一原子力発電所。3月16日午前、福島第一原子力発電所。



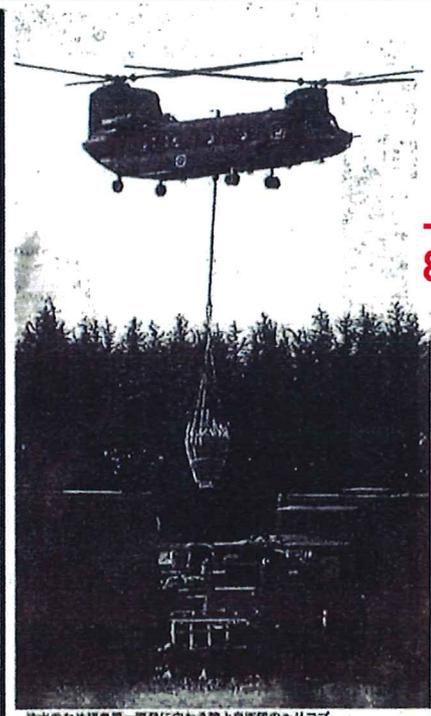
3月16日午前、福島第一原子力発電所。3月16日午前、福島第一原子力発電所。3月16日午前、福島第一原子力発電所。

「レベル6目前」 米研究所放射線拡散を懸念

【ワシントン16日共同】米国の原子力規制委員会（NRC）は、福島第一原子力発電所（福一）の原子炉冷却水が、レベル6（全炉停止）に達する可能性を懸念している。NRCは、福一の原子炉冷却水が、レベル6に達する可能性を懸念している。NRCは、福一の原子炉冷却水が、レベル6に達する可能性を懸念している。

米国の原子力規制委員会（NRC）は、福島第一原子力発電所（福一）の原子炉冷却水が、レベル6（全炉停止）に達する可能性を懸念している。NRCは、福一の原子炉冷却水が、レベル6に達する可能性を懸念している。NRCは、福一の原子炉冷却水が、レベル6に達する可能性を懸念している。

2011年3月16日毎日新聞(甲1049)



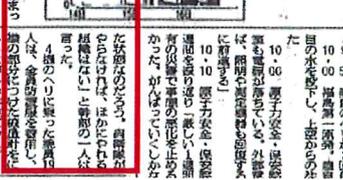
注水のため福島第一原発に向かう陸上自衛隊のヘリコプター。17日午前8時55分、飯沼市若林区、小原路撮影

福島第一3号機 機長判断で決行

上空は 87.7mSv/h

【福島17日共同】福島第一原子力発電所（福一）の3号機で、注水作業を行うため、機長が判断して決行した。機長は、上空の放射線量が87.7mSv/hであることを確認し、注水作業を行うことに決断した。

機長は、上空の放射線量が87.7mSv/hであることを確認し、注水作業を行うことに決断した。機長は、上空の放射線量が87.7mSv/hであることを確認し、注水作業を行うことに決断した。



放射線

福島第一原子力発電所（福一）の3号機で、注水作業を行うため、機長が判断して決行した。機長は、上空の放射線量が87.7mSv/hであることを確認し、注水作業を行うことに決断した。

機長は、上空の放射線量が87.7mSv/hであることを確認し、注水作業を行うことに決断した。機長は、上空の放射線量が87.7mSv/hであることを確認し、注水作業を行うことに決断した。

水投下届いてくれ

福島第一原子力発電所（福一）の3号機で、注水作業を行うため、機長が判断して決行した。機長は、上空の放射線量が87.7mSv/hであることを確認し、注水作業を行うことに決断した。

機長は、上空の放射線量が87.7mSv/hであることを確認し、注水作業を行うことに決断した。機長は、上空の放射線量が87.7mSv/hであることを確認し、注水作業を行うことに決断した。

2011年3月17日朝日新聞(甲1050)

請戸の浜の悲劇

—放射性物質が救出活動を妨げ、失われた命—

3月12日午前5時44分、突如、原子力発電所から半径10km圏内(請戸の浜は原発から約7km地点)に避難指示が発令された。この避難指示により、早朝から予定していた津波による行方不明者の搜索活動が中止となった。



福島第一原発の煙突

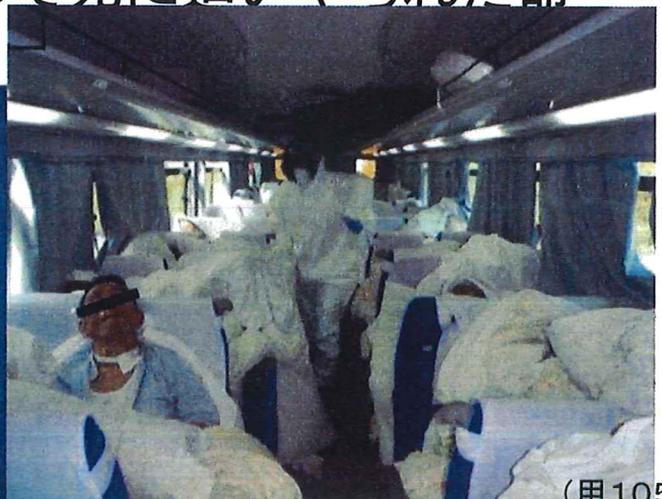
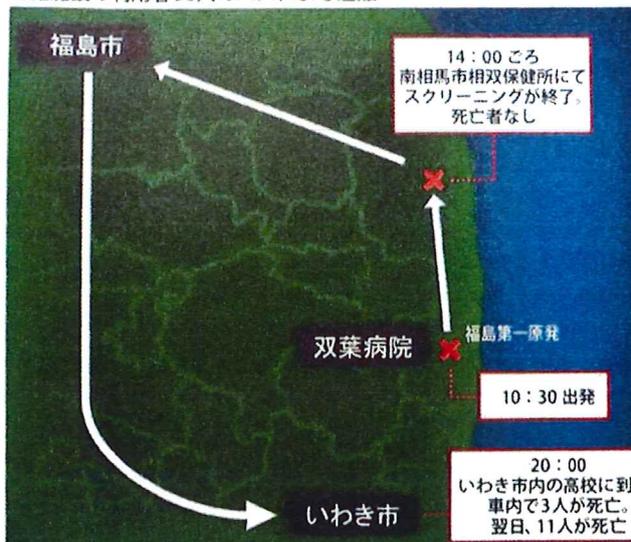
(甲253・10分37秒)

請戸の浜に立つと今も助けを求める泣き声が聞こえる。翌朝の救助活動の準備のために浜を回った消防団員は、多くの被災者の助けを呼ぶ声を聞いていた。(浪江町安達運動場仮設住宅自治会長本田昇さん)

双葉病院事件

—過酷な避難行程によって死に追いやられた命—

3月14日に行われた双葉病院の重篤患者34人と老健施設の利用者98人のバスによる避難

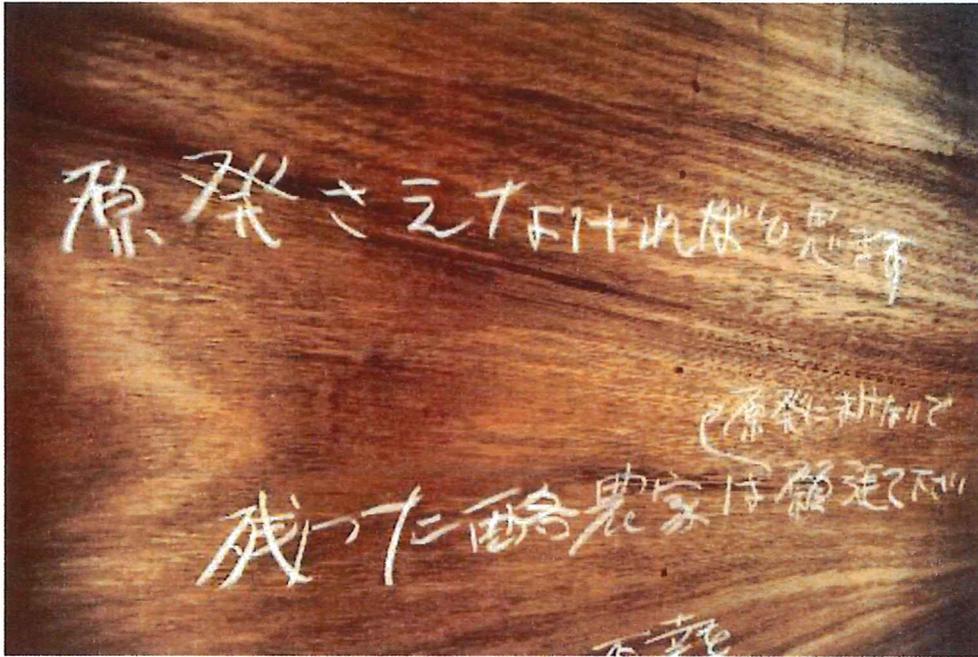


(甲1054)

平常時なら30分の距離を、原発事故時は10時間かけて移動した。

救出完了は3月16日。50人の犠牲者、一人の行方不明者を出した。搬送先は合計80か所近くに及んだ。ほとんどが避難過程で命を落とした。

遺書「原発さえなければ」

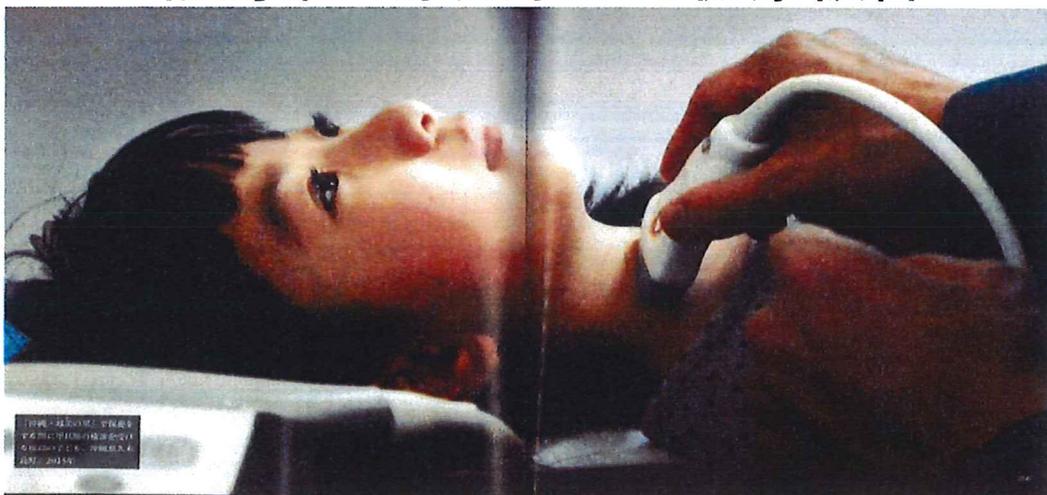


(甲1054)

福島県相馬市の酪農家菅野重清さん(54)は、妻のバネッサさんと息子二人を残し、堆肥小屋の壁に「原発さえなければ」の遺書を残し自殺した。

9

放射性物質による健康被害 —福島第一原発事故の健康被害—



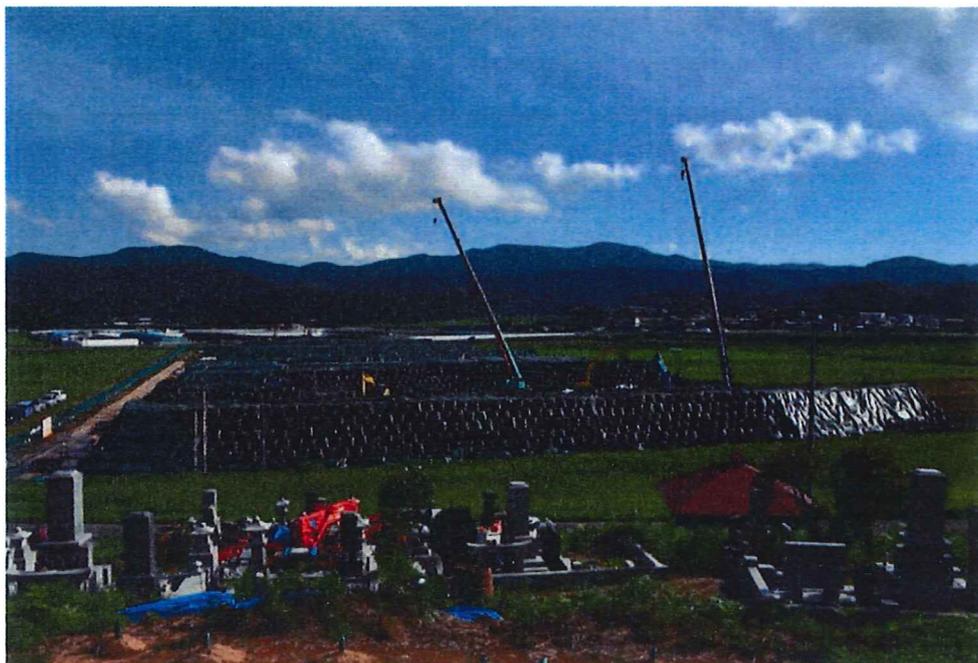
(甲623)

福島県「県民健康調査」検討委員会の公表データによると、2018年12月までに、穿刺細胞診で悪性ないし悪性疑いのと判定された患者は212人。手術を実施した患者が169人にのぼる。なお、福島県と検査を実施している福島医大は、公表データからもれている集計外患者の存在を認めている。

(甲1052)

10

原発事故から8年経っても汚染は続く



原発から約50km離れた飯舘村(いいたてむら)では、放射性物質で汚染された土壌がフレコンバッグに入れられて、2019年現在も、村内に、山積みになっている。(甲1051)1

原発事故から8年経っても汚染は続く



原発から約50km離れた飯舘村(いいたてむら)では、放射線量は、環境省の基準 $0.23\mu\text{Sv}/\text{h}$ を上回っている。(上記写真は、 $0.65\mu\text{Sv}/\text{h}$) (甲1051)

全国各地で避難者による損害賠償訴訟

平成30年3月16日東京地裁判決

「本件事故による現実の被害が、多数の国民等の生命、身体に重大な危害を及ぼし得るものであっただけでなく、**現実**に十万人を超える避難指示等区域内外の避難者を創出し、その避難者の人格的利益及び財産的利益を侵害し、その避難者の人生そのものを変えてしまふばかりでなく、我が国の国土等の環境にまで広範に、長期的に、不可逆的に、甚大な被害を与え、国家予算等、ひいては、最終的に租税等の形でそれを支出等する国民等に対して重い負担を与え続けているものであること」

(甲998・304～305頁)

13

司法の正しい判断を

原発の危険性を認めない従来の司法判断が誤りであったことは、福島第一原発事故が事実をもって示した。



1937年生まれ。鹿児島県・高橋町生まれ。鹿児島大学法学部卒業。2002年に定年退職。

「司法が踏み込んでチェックしていれば、福島第一原発事故はなかったかもしれない」

海保寛元裁判官(高浜原発2号機訴訟における一審裁判長)

(甲1055・31頁)

司法は二度と判断を誤ることの無いよう、この被害の実態を常に念頭に置かなければならない。

14

小括

福島原発事故は、甚大な被害を広範囲で引き起こし続けている。

この被害は、生命、身体、精神及び生活に関する利益を侵害するものであることは明らかであり、まさに人格権侵害である。このような甚大な被害を引き起こす原発事故は、二度と起きてはならない。

被害の甚大さに照らせば、原発の安全性は、他の施設よりも、高いものが求められる。

貴裁判所には、原発事故被害の実態を把握して頂き、正しい司法判断をしていただきたい。